

「 栄光を見させて下さい 」

イザヤ書

ヨハネによる福音書

第60章 1節～3節

第17章 20節～26節

説教 岡村 恒牧師

「父よ、わたしに賜わった栄光を、彼らに見させて下さい」(24節)。主イエス・キリストが十字架にはりつけにされるその前夜に、私たちのために祈って下さった祈りの言葉です。はじめに御自身に与えられた栄光について感謝を献げ、次に弟子たちのために祈り、そして今日お読みした部分では弟子たちの話を聞いて主イエスを救い主として信じる人々全てのために祈られました。かつて祈られただけではなく、この祈りが今ここでも響いて、神によって実現されます。全ての人々というのは、まさに今ここで聖書を読み、教会で礼拝を守りながら主イエス・キリストを信じている私たちのことです。

この礼拝は、主イエスの祈りから2,000年あまり時間の隔たりを持っています。主イエスが祈られたイスラエルからは何万kmも遠く離れています。しかし、それでも私たちはこの礼拝のただ中に、主イエス・キリストが共にいて下さると信じて、礼拝を守っています。ひとりひとりの中に聖霊が注がれて、主イエスがお約束の通り、私たちと片時も離れずにいて下さることを信じています。私たちはキリストとひとつであると信じているのです。それが実現したのは、主イエス・キリストがそう願ひ、神に祈り求め、この祈りが実現するために十字架にかかって下さったからです。

本来、神と私たちはひとつであり得ません。神の前に『あなたは正しい存在、わたしの目に美しく、わたしの心に適うものだ』と呼ばれるような人間など一人もいません。それが聖書が明らかにする私たち人間の現実です。しかし、主イエス・キリストが地上においでになり、私たちが味わうはずの闇の絶望、神と遠く隔たった者の嘆きの一切を背負って、十字架にかかって下さいました。私たちが受けるはずの裁き、死と滅びを、主は代わって味わい尽くして下さいました。その目的はひとつです。私たちがキリストに結び合わされ、神とひとつとなるためです。私たちの一部、僅かに良いところ、多少神の前で褒めていただけそうな場所、心の片隅の美しい場所だけが神に結び合わされるのではないのです。イエス・キリストによって罪を贖われ、きよめられるということは、完全な赦しが与えられ、神と完全にひとつとなることです。

弟子たちはこの後、主イエスが捕らえられると一目散に逃げます。しかし、主はその弱さも

含めて弟子たちを愛し、私たちが愛して下さいました。それは、私たちが神を愛して神とひとつとされ、その私たちを通してこの世が神を知るようになるためです。また一人、また一人とイエス・キリストを知り、神の愛を知って、聖書に証しされた神を信じるようになるためです。私ひとりだけが信仰を与えられ、救いに入れられ、喜んで生きようになった、そこで終わらないのです。主イエス・キリストが『彼らに栄光を見させて下さい』と祈られたのは、天地が造られる前から変わることのない神の愛が、この世界全体を愛し抜いておられることを私たちが知り、私たち信仰者の群れ全体を神ご自身に結びつけてくださるためでした。

主イエスはこの夜、命を絞り出すようにして祈って下さいました。私たちが運命とか定めと呼ばれるものや得体の知れない悪しきものに支配され翻弄されて生きるのではなく、主イエス・キリストが十字架でなされた贖い、私たちの救いのわざのゆえに、それらのものから解放されて、神の栄光と力の中で生きようようになるために、主は祈られたのです。私たちは今も、この祈りのただ中で生きています。今も主イエス・キリストは父なる神のかたわらにおられて、私たちひとりひとりのために名を呼んで祈っておられます。やがて終わりの日、神の前に私たちが立つ時も、私たちの弁護者、私たちを執り成す御方として主イエスはおられます。そして約束の通り、イエス・キリストを信じ、〈キリストのもの〉と呼ばれる者を一人残らず、共に神の国の食卓につけてくださるのです。これは確かな約束です。

主イエス・キリストの祈りが響く中で生き、また地上の旅を最後まで歩み終え、神の国で目覚めることができる。これが、聖書が私たちに指し示す本当の福音です。これよりも良い知らせを、私たちは他のどこに行っても聞くことはできません。天地を造られた神が、御子を愛しておられるように私たちをも愛し、その栄光をもって私たちを照らし、輝かせてくださいます。私たちはこの約束を、主イエス・キリストが祈り通された言葉を信じて歩んで良いのです。今日からまた新しく力をいただいて、歩み出したら良いのです。その一日一日の歩みを、主イエス・キリストの祈りが支えて下さいます。

(記 説教要約奉仕者)